
路上の猫

ぽむ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

路上の猫

【Nコード】

N1871N

【作者名】

ぼむ

【あらすじ】

「さあ、始めようか。楽しい楽しい舞踏会を」

S t r e e t g i r l (前書き)

「壊しちゃえばいいじゃん。ゼーんぶ」

Street girl

その少年に初めて出会ったのは、暗い森の中だった。身長は私とほぼ同じくらい、体のラインもほっそりとしていて、はじめ見たときは暗いこともあって女の子かと思った。

「何を悩んでいるの？」

その少年は、なぜだか楽しそうな声で言った。

「悩んでる？ 私が？」

内心、男の子の声がして驚いていたが、私はそう返した。

「そうだよ、君の心が何かを欲しているのが分かるんだ」

少年はクスクスと笑う。

こいつは何を言っているのだろう、とそう思った。

「私が何かを欲しているだって？ そりゃ、人間なんだし欲しいもののひとつやふたつぐらいあるよ」

「例えば？」

「えっと……今はとりあえず服が欲しいかな」

「そうじゃない」

「えっ」

気づくと、少年は私の目の前に立っていた。

「君が欲してるのはそんな曖昧な物じゃない、もっとハッキリしたものだろ？」

闇の中から暗く、重い二つの光が私を見つめている。

もう何がなんだか分からない。

そもそも、さっきからこの少年は何を言っているのだろうか。

私はなぜこんな森の中に居るのだろう。

様々な疑問が私の頭の中をグルグルと回りだしたとき、少年はまたクスクスと笑って「まあ、そう焦らせなくてもいいか」と呟いて私から離れてもりの中へ歩き出していった。

「君は起きな。もう朝だよ」

少年の背中が、もう闇の中に消えて見えなくなっていた。

「どう思うよ」

「何が？」

現在、私の隣の向かいの席に座っている（正確には私が座りに来たんだけど、この際どうでもいい）川本七恵は机上の数学のワークから目を離さずに、やけに間延びした声で返してきた。

「いやだから、私の夢の話し」

「アンタ今日夢見たの？」

「お前……」

一瞬殴ってやろうかと思ったが、仮にも授業中。ここは大人の綾瀬さんは手を上げずに大人の対応をしようと試みてみます。

「七恵、アンタ人の話はちゃんと聞かないと社会でやっていけないよ？」

「それなら先生の話しをちゃんと聞いてテスト勉強やんなさい。中間は赤点ストレスだったんでしょ、アンタ」

「うつ……」

あくまで冷静な返事をしてくる七恵に対して言葉に詰る依。

そう、現在は自習とは言ってもれっきとした授業中。しかも一週間後にテストを控えた大事な時間。なのだけれど……

「依、アンタ結局課題いくつ終わったの？」

「……なーんもやってない」

「アホ」

「分かってるやい！ 七恵のアホ！」

「はいはい、喋ってる時間があつたら課題やろっね。教えてあげるから」

「……はい」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1871n/>

路上の猫

2011年10月6日21時28分発行